

令和3年度

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について



東大阪市教育委員会

目 次

I. 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 ページ

II. 調査結果

実技調査(小学5年生)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2ページ

実技調査(中学2年生)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3ページ

児童・生徒質問紙調査(小学5年生)・・・・・・・・・・・・・・4 ページ

児童・生徒質問紙調査(中学2年生)・・・・・・・・・・・・・・5 ページ

学校質問紙調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6 ページ

III. 今後の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7ページ

IV. その他

コロナ渦に関連した児童生徒質問調査・・・・・・・・・・・・・・8 ページ

I. 調査の概要

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査の対象とする児童生徒

小学校、義務教育学校前期課程第5学年（対象児童 3,646人）

中学校、義務教育学校後期課程第2学年（対象生徒 3,637人）

3. 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査

小学校〔8種目〕握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、
立ち幅とび、ソフトボール投げ

中学校〔8種目〕握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走または20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣、食習慣等に関する質問紙調査

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における体育、保健体育の指導及び特別活動に関する質問紙調査

4. 実技調査実施期間

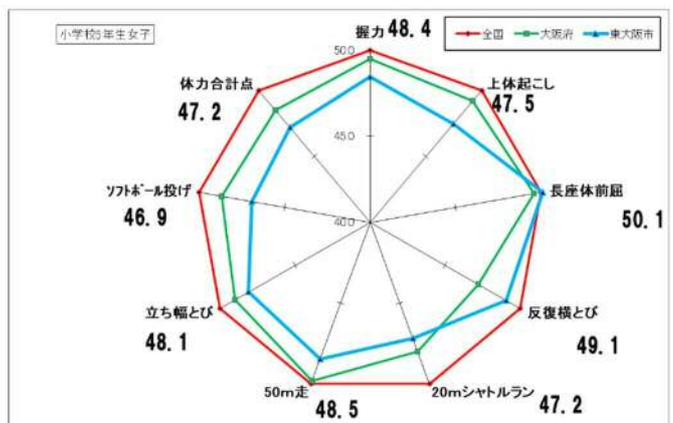
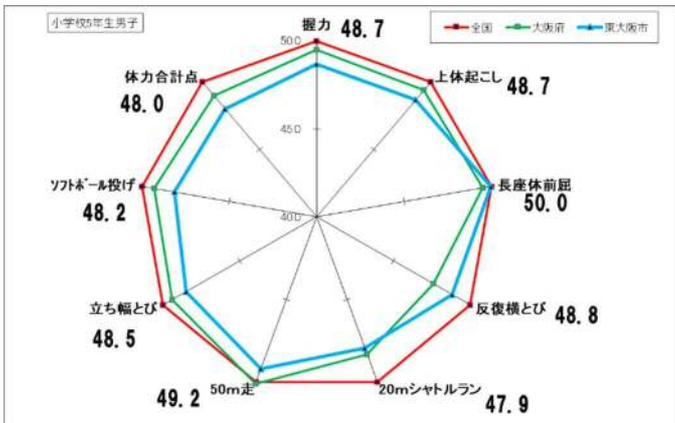
令和3年4月～令和3年7月末

II. 調査結果

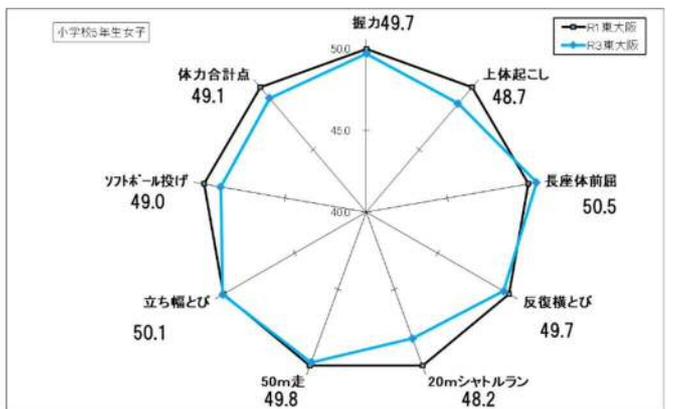
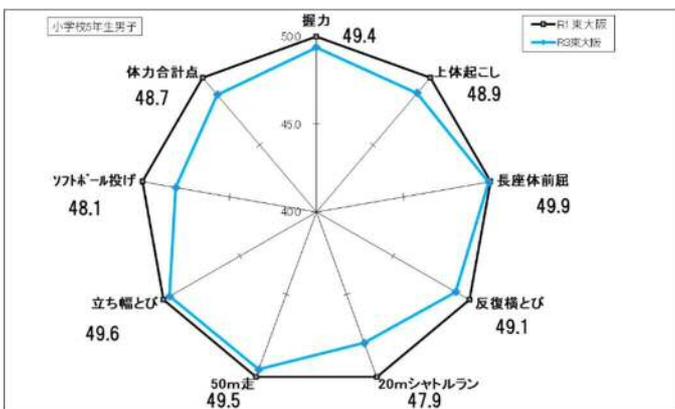
実 技 調 査

○ 小学5年生

(Tスコア・・・項目付近の数字は全国平均を50としたときの大阪府と東大阪市の値)



(Tスコア・・・令和元年度の東大阪市の値を50としたときの令和3年度東大阪市の値)



(参考) 令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果

		身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ボール投げ(m)	得点合計(点)
小学校5年 (男子)	全国	139.29	35.08	16.22	18.90	33.48	40.35	46.83	9.45	151.41	20.58	52.52
	大阪府	139.14	34.65	16.07	18.56	33.24	38.56	43.96	9.40	150.82	19.90	51.61
	東大阪市	139.38	35.79	15.71	18.11	33.46	39.36	42.50	9.53	147.92	19.07	50.64
	東大阪市(R1年度)	138.78	34.60	15.95	18.83	33.56	40.15	45.98	9.48	148.90	20.43	51.92
小学校5年 (女子)	全国	140.90	34.90	16.09	18.08	37.90	38.72	38.15	9.64	145.18	13.30	54.64
	大阪府	140.69	34.47	15.89	17.60	37.50	36.73	35.25	9.65	143.74	12.63	53.29
	東大阪市	140.73	34.69	15.49	16.75	37.99	38.00	33.58	9.77	141.05	11.86	52.14
	東大阪市(R1年度)	140.15	34.12	15.60	17.47	37.54	38.27	36.23	9.75	140.92	12.29	52.89

*政令市含む

分析

<全国比>

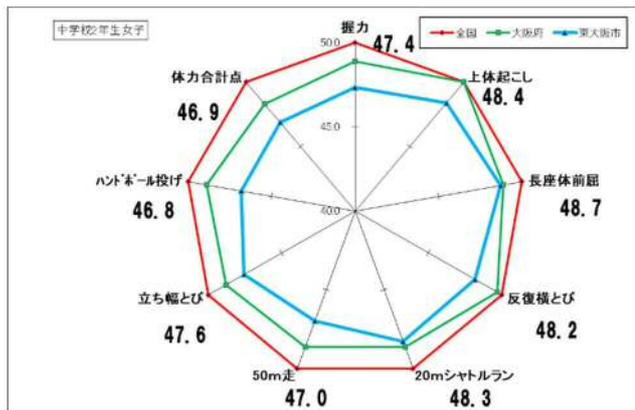
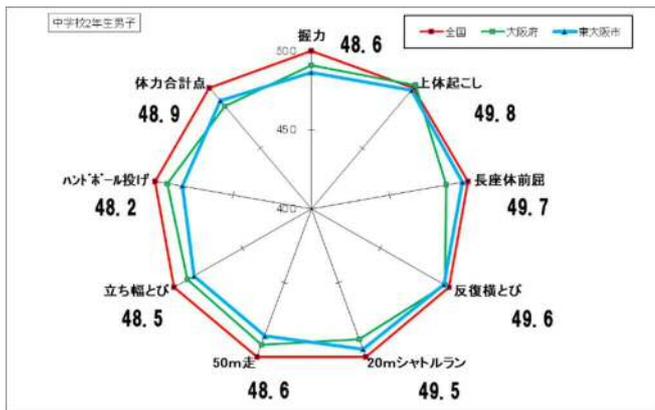
◆女子の長座体前屈は全国平均を上回ったが、その他の種目で男女とも全国平均を下回り、体力合計点も全国平均と比べ低い値になっている。

<<R 元年市比>>

◆女子の長座体前屈、立ち幅跳びで前年度を上回ったが、その他は下回った。

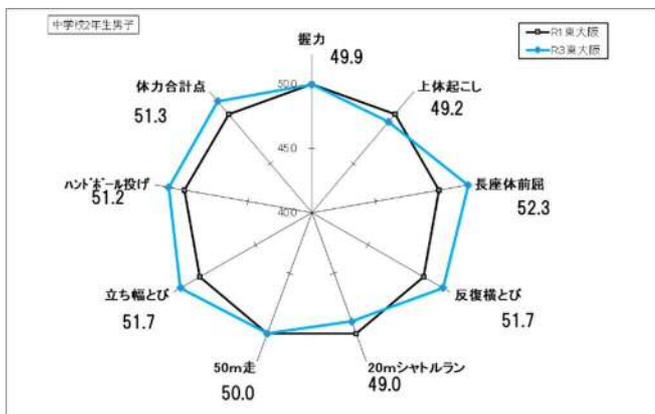
○ 中学 2 年生

(Tスコア・・・項目付近の数字は全国平均を 50 としたときの東大阪市の値)



(Tスコア・・・令和元年度の東大阪市の値を 50 としたときの令和 3 年度東大阪市の値)

(参考) 令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果



		身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ボール投げ(m)	得点合計(点)
中学校2年 (男子)	全国	160.62	49.70	28.80	25.99	43.67	51.19	79.88	8.01	196.36	20.31	41.18
	大阪府	160.60	48.96	27.85	25.82	42.10	50.50	76.61	8.09	192.41	19.56	39.57
	東大阪市	161.22	50.26	27.82	25.87	43.29	50.87	78.60	8.14	192.06	19.26	40.04
	東大阪市(R1年度)	160.18	49.06	27.86	26.36	40.69	49.50	81.16	8.14	187.56	18.56	38.71
		身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ボール投げ(m)	得点合計(点)
中学校2年 (女子)	全国	154.90	47.01	23.43	22.32	46.20	46.25	54.24	8.88	168.15	12.72	48.56
	大阪府	155.04	46.23	22.78	22.15	45.22	45.74	51.04	8.99	164.06	12.07	46.58
	東大阪市	154.98	46.47	22.20	21.37	44.91	44.96	50.78	9.13	162.03	11.39	45.02
	東大阪市(R1年度)	154.91	46.60	22.75	22.45	43.77	45.17	55.49	9.00	161.34	11.50	46.08

＊分析＊

<全国比>

◆全種目で男女とも全国平均を下回り、合計点も全国平均と比べ低い値になっている。

<<令和元年市比>>

◆男子は9種目中4種目(長座体前屈・反復横跳び・立ち幅跳び・ハンドボール投げ)において、女子は9種目中2種目(長座体前屈・立ち幅跳び)において前年度を上回っている。体力合計点は男子は前年度を上回り、女子は前年度より下回っている。

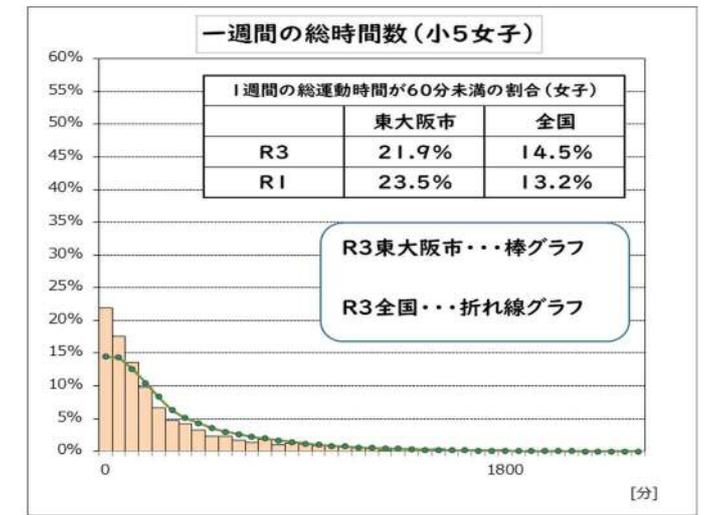
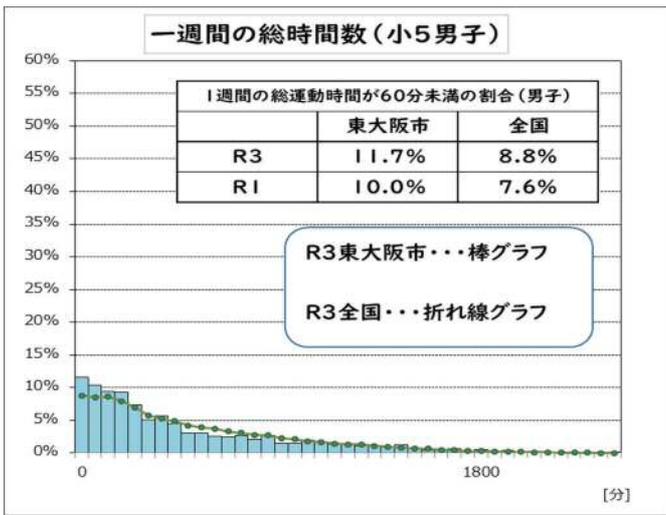
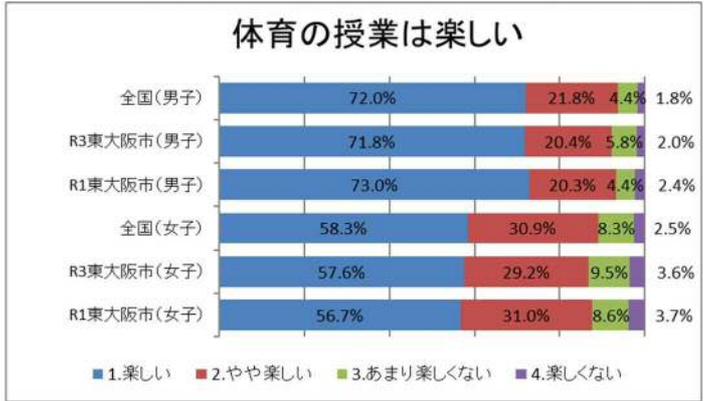
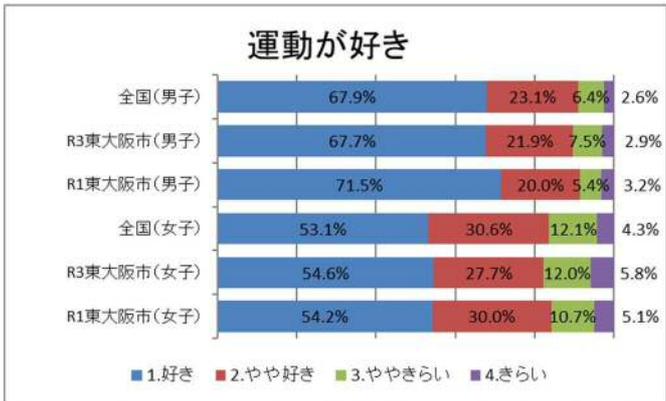
＊実技調査全体(小5、中2)の考察＊

市全体としては、小中学校男女ともに令和元年度から比べると、低位な結果であるが、改善が見られる種目があることから、今後さらに筋力、敏捷性、持久力等といった基礎的運動能力の向上に向け、具体的な取組みを進めていく必要がある。

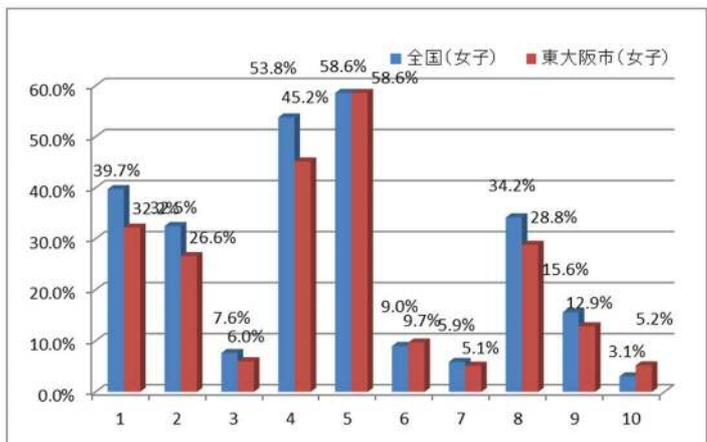
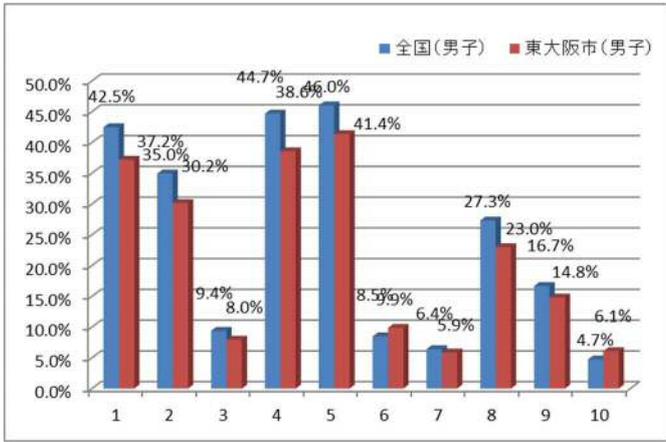
また、各学校においては、市の課題を共有するとともに、学校全体、学年、クラス、個人ごとに分析を行い、課題に応じた取組みを行う必要がある。

児童・生徒質問紙調査

○小学5年生



体育の授業について『できないことができるようになったきっかけ』(複数回答可)



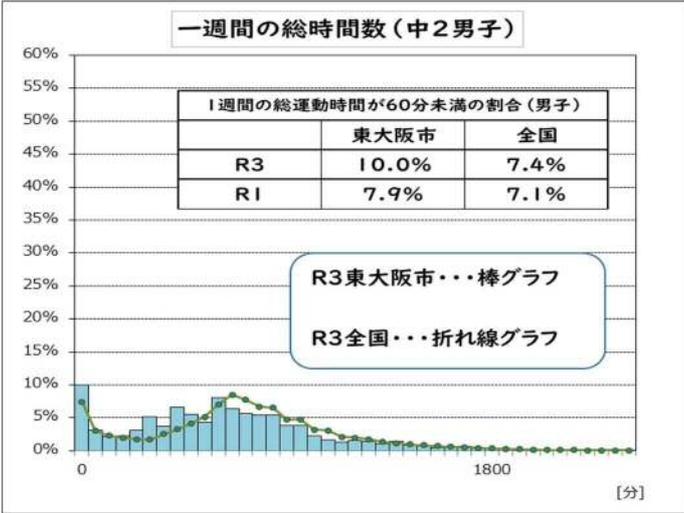
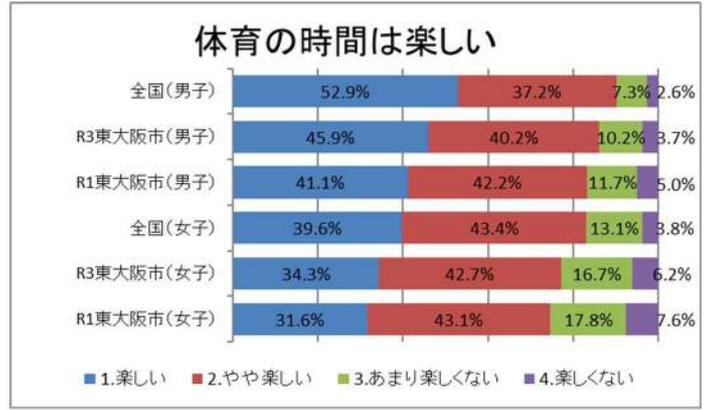
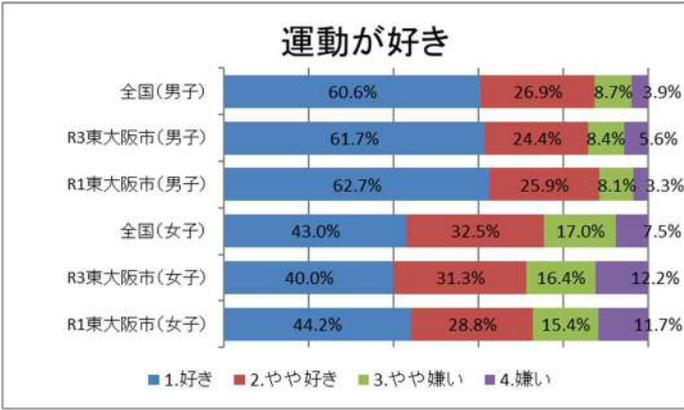
※番号の質問内容

1. 授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
2. 授業中に自分で工夫した
3. 自分に合った場やルールが用意された
4. 先生や友達のまねをしてみた
5. 友達に教えてもらった
6. 授業中に自分の動きを動画で見た
7. 授業外に先生に教えてもらった
8. 授業外に自分で練習した
9. 授業外に本や動画を見た
10. できるようになったことがない

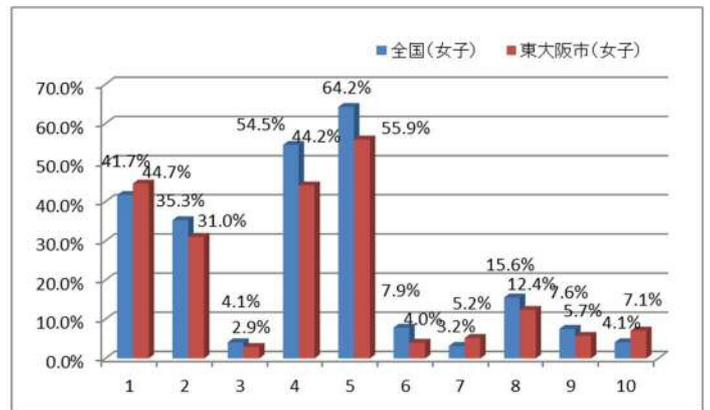
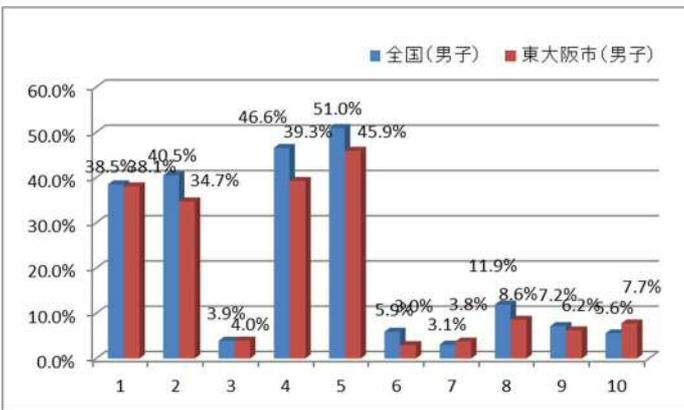
分析

<全国比>
『運動が好き』、『体育の授業は楽しい』の割合はやや低い傾向にある。1週間の総運動時間の分布は、全国と比べて『60分未満』の割合が高い。全国との割合の差は依然として大きい。
体育の授業について、『できないことができるようになったきっかけ』では、男女ともに「友達に教えてもらった」が最も高く、次いで男女ともに「先生や友達のまねをしてみた」の値が高かった。

○中学2年生



体育の授業について『できないことができるようになったきっかけ』(複数回答可)



※番号の質問内容

1. 授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
2. 授業中に自分で工夫した
3. 自分に合った場やルールが用意された
4. 先生や友達のまねをしてみた
5. 友達に教えてもらった
6. 授業中に自分の動きを動画で見た
7. 授業外に先生に教えてもらった
8. 授業外に自分で練習した
9. 授業外に本や動画を見た
10. できるようになったことがない

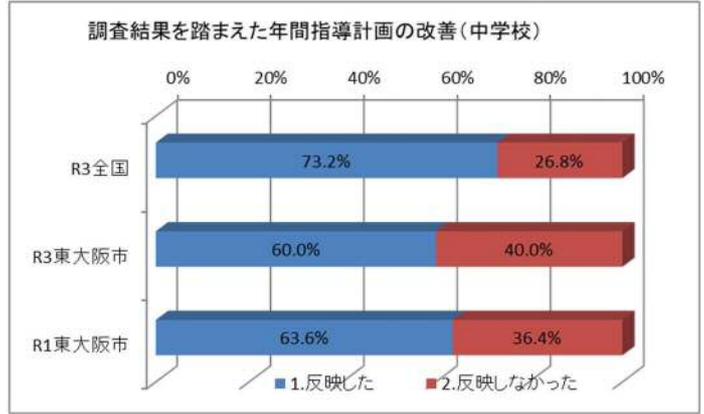
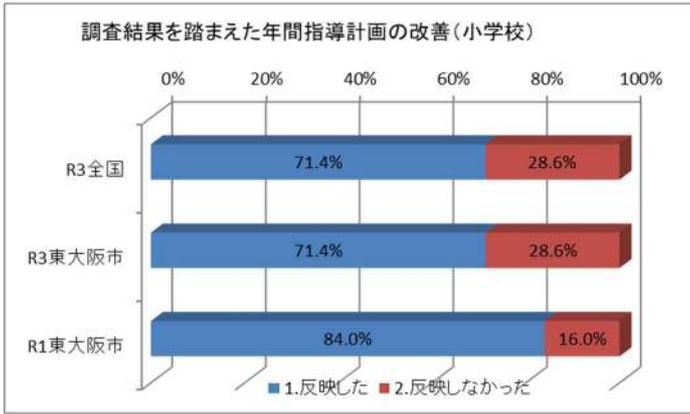
※分析※

男子の『運動が好き』の「1.好き」は全国より高い数値になっている。『体育の授業は楽しい』の割合は男女ともに全国より低い。

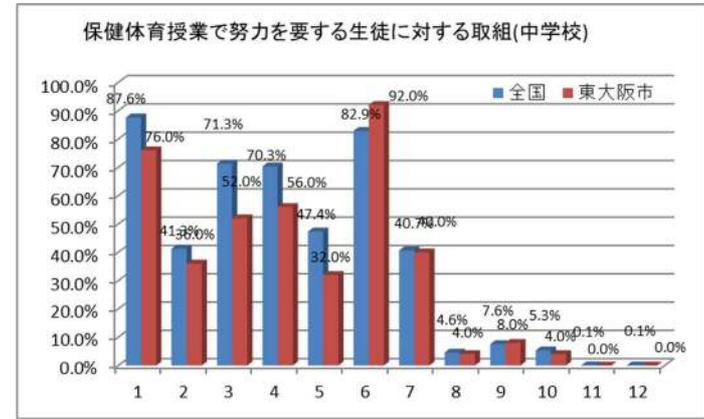
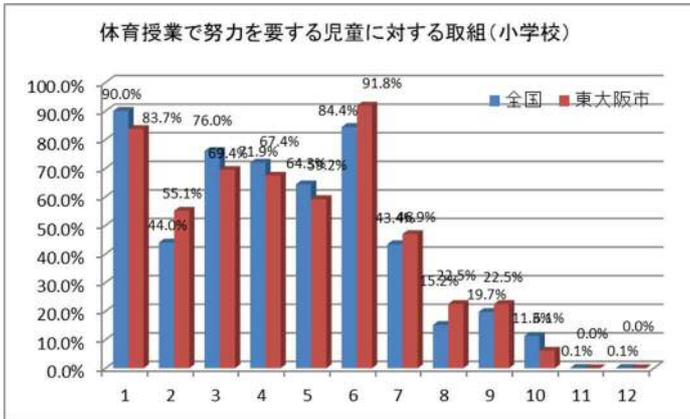
1週間の総運動時間の分布は、全国と比べて『60分未満』の割合が高い。また本市の令和元年度と比べると、割合が高くなっている。

体育の授業について、『できないことができるようになったきっかけ』では、男女とも「友達に教えてもらった」が最も高く、次いで「先生や友達のまねをしてみた」となった。

学 校 質 問 紙 調 査



○体育授業で努力を要する児童生徒に対する取組 ※複数回答可



※番号の質問内容

1. 授業中、コツやポイントを重点的に教える
2. 授業中、生徒自ら工夫させる
3. 生徒に合った場やルールの提示
4. 生徒に合った運動課題の段階的な準備
5. 教員や友達のまねを促す
6. 友達同士で教え合いを促す
7. 授業中に自分の動きを映像で見る
8. 授業外に教える
9. 授業外の自主練習を促す
10. 授業外に本や映像を見られるようにする
11. 特にしていない
12. 努力を要する児童生徒はいない

分析

『調査結果を踏まえた年間指導計画の改善』における「反映した」の割合が、小学校は、全国と同様だが令和元年度より下回っている。中学校は全国を下回り、前年度と比べても下回っていた。

『体力・運動能力向上に係る取組』について全国と比べると、小中学校ともに「友達同士で教え合いを促す」が最も高く、小学校では 91%、中学校では 92%であった。小中学校ともに「授業中に自分の動きを映像でみる」が高くなってきている。

*児童・生徒質問紙調査、学校質問紙調査の考察

児童・生徒質問紙調査「できることができるようになったきっかけ」学校質問紙調査「努力を要する児童生徒に対する取り組み」より・・・

児童・生徒質問紙調査「6. 授業中に自分の動きを動画で見た」、学校質問紙調査「7. 授業中に自分の動きを映像で見る」の数値が高いことから 1 人 1 台端末が整備され、各校での授業の工夫、授業改善がみられる。

また、児童・生徒質問紙調査「5. 友達に教えてもらった」学校質問紙調査「6. 友達同士で教え合いを促す」の数値が高いことから、児童生徒が、学び合いの中で課題解決し、体力向上に繋がっていると考えられる。

Ⅲ. 今後の方針

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から見られる本市の児童・生徒の体力・運動習慣等の課題について、その改善を図るため、以下の取組みを進めていく。

○本市の取組み

- ・結果をもとに分析検証を行い、本市の課題を明らかにし、今後の方策について検討するとともに学校に発信する。
- ・学校の工夫した取組みや全国、大阪府の好事例を集めるとともに、市立学校への情報提供に努める。
- ・国が作成する「生活習慣と体力・運動能力の相関関係の資料」をもとに周知を行う。

○学校における取組み

- ・本調査の実施要項とともに送付された「記録シート」を通して、児童・生徒自らが自分の運動能力を知り、今後の運動の計画や目標を持つことができるように努める。
- ・体育の授業において、一人ひとりが達成感を得られるよう、きめ細かい指導を行うとともに、運動量の確保に努める。(例:ボールの投げ方を動画に取り、互いに分析する等)
(「教え合い、学び合い」の更なる充実、一人一台端末の有効活用)
- ・体力向上に関する様々な府・市の実施する事業を有効活用し、学校生活を通して運動機会を増やし、継続的に子どもたちが運動に親しむ機会の充実を図る。
- ・各校において、一人ひとりの児童・生徒の体力・運動能力、運動習慣等を把握し、課題の改善に向けた取組みを推進する。
- ・「体力づくり推進計画(アクションプラン)」の活用の推進。(PDCA サイクルを意識した取組み)

○幼児期からの取組み

- ・幼児期から運動に親しみ、体を動かす心地よさや集団遊びの楽しさを体験し、健康な体づくりや運動に取り組む意識を育てるとともに、幼稚園・こども園・小学校・中学校が連携し、それぞれの発達段階に応じた指導・取組みの充実を図る。
- ・民間の幼稚園・こども園等にも積極的に情報提供をし、協力を依頼する。

○家庭・地域との連携

- ・園児・児童・生徒の運動習慣・生活習慣の見直しと改善を図るため、学校園と家庭、地域が連携し、地域のスポーツ行事等への参加の啓発等、園児・児童・生徒が生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力の基礎を育てる取組みを進めていく。

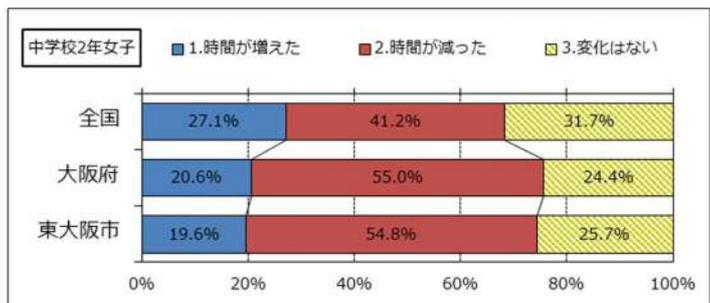
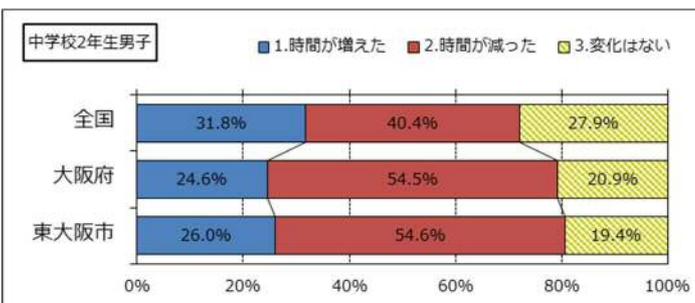
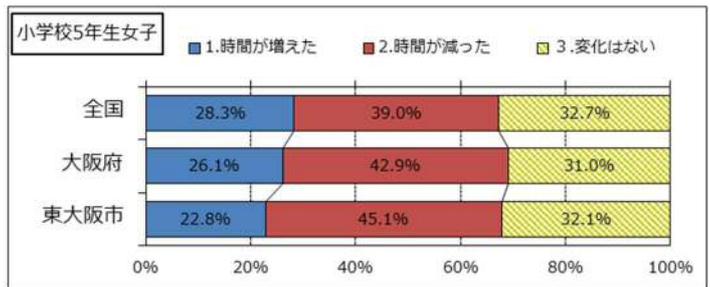
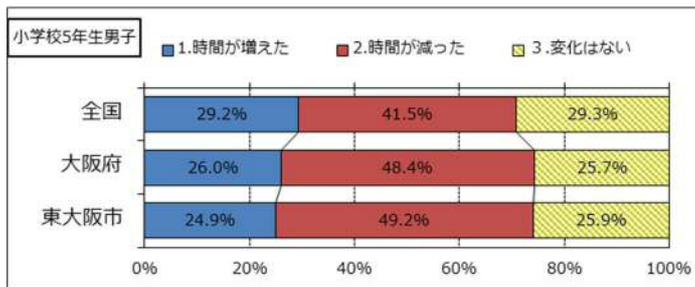
○各研究会との連携

- ・東大阪市小学校体育研究会、東大阪市中学校保健体育研究会と連携し、授業研究や体育的行事についての取組みの充実を図る。

IV・その他

コロナ禍に関連した児童生徒質問調査

「新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年度3月以前）と現在とを比較して、あなたの運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツへの取り組みはどのように変化しましたか。



「運動やスポーツをする時間が減った」と回答した割合は、本市では、小学校で4割を超え、中学校では5割を超えた。全体的に、コロナ禍により、それまで以上に運動やスポーツをする機会が減少し、日々の身体活動量が低下していることが考えられる。

一方で、「運動やスポーツをする時間が増えた」という回答もあることから、コロナ禍であっても創意工夫しながら限られた環境下で運動時間を確保できていたこともうかがえる。あくまで運動やスポーツに関わる時間のみの結果であるため、内容までの把握はできていないものの、児童・生徒が、オリンピックやラグビーワールドカップ等を通して運動やスポーツへの関心が高まった影響も出ていてはないかと考えられる。

